

# 町小だより

令和2年  
9月29日  
No. 652  
御免町小学校

## 一本の麦茶から見たもの

校長 藤井 聡

前夜の豪雨から一転。さわやかな秋晴れの空の下で行うことができた「町小大好き ミニ運動会」御来校いただいた皆様、御来校いただけなくても声援をおくってくださった皆様、ありがとうございました。規模は「ミニ」でも中身は「ビッグ」で、充実した半日を過ごすことができました。子どもたちをはじめ、多くの方々や目に見えない力に感謝しています。

感謝と言えば、最近口にした一本のペットボトル入りの麦茶に、心から「感謝」の気持ちを抱くことができました。御紹介します。

春から、グラウンドに面した花壇を「みんなの思いやり花壇」と名付け、日々の水やりや草むしりなどに、子どもたちが主体的に取り組んでいることは御存じのことと思います。夏休み中は、月曜日から金曜日は勤務日ですので、職員が水やりをしていました。土曜日と日曜日の水やりは当番の学級を割り振って水やりをしていました。2学期になり、学級割り振りの水やり当番はなくなりましたので、子どもたちの自主性に任せていました。私は、そこに集まる子どもたちのキラキラした顔が見たくて、なるべく学校に来るようにしていました。

その日は日曜日でした。前日の土曜日には、10名ほどの子どもたちが来て、水やりや草むしりをしていました。翌日曜日は、前夜に雨が降ったこともあり、子どもたちの姿は見られませんでした。私が花壇の様子を見に行ったのは、前日に植え替えた苗の様子を見ることと、高温注意報が出ているため、水が不足するだろうと思ったからです。

花壇で作業をしていると、校門辺りで一人の女の子とお婆様がこちらを見ていることに気付きました。手を振ると、女の子が駆け寄ってきました。「おはよう。」と声をかけると、「校長先生、これ飲んでください。」と一本の麦茶を差し出しました。「えっ？どうして？」「もらっていいの？」と答えると、「今、七区の草取りに行ってきたんです。」「そこでもらったんですけど、よかったら飲んでください」と女の子は言います。恐縮しながら麦茶をいただき、校門付近に留まるお婆様に、お礼を伝えました。二人はニコニコと笑いながら仲良く歩いて行かれました。

花壇に一人佇んで、この二人に思いを馳せました。

私の姿を見つけたとはいえ、わざわざ足を止め、自分がもらった御褒美ともいえる麦茶を私に届けようというその思い、そして、そんな孫の姿を笑顔で見守るこのお婆様の思い……。自然に、「優しい。」という言葉が漏れました。きっとこの二人は、遠くから、花壇で汗を流す私の姿を見つけていたに違いありません。そして、「この麦茶を校長先生にあげたら喜んでくれるかなあ。」などという会話があり、駆け寄ってきたのだと思います。

素敵な二人ですね。

一本の麦茶から見たものは、優しい心を育てる「教育」そのものでした。こんな風にさりげなく「優しさ」を育てていけたらいいですね。